入選

# 溢れる水への想い

川越市立初雁中学校　三年　藤井　香央梨

人が生活していく上で、「水」という存在はかけがえのないものだといえる。しかし、水と向き合う人の心にも感謝するべきではないのか、と私は考える。

私が水源地域について知ったのは小学生の時だった。いつものように家に帰り、テレビを付けニュース番組を見ていた。ダムの建設のため、水没してしまう地域からの批判といった内容。出演しているコメンテーターがもくもくと喋っていた。私は、正直ダムの建設のためだし、しかたがないのではと思った。私にとって水とは、蛇口をひねればいくらでも出てくるものだと思っていたからだ。私の水に対する意識は全く無かった。そんな考えが一変した出来事があった。新型コロナウイルスで学校が休校になり、家には母と兄と私がいた時だった。その日はいつもよりも暑さが増したお昼時だった。うどんを食べて、暑さを凌いでいた。急に家のドアを、何度も引く音が聞こえたためドアを開けてみた。そこには、近所の方が立っていて、

「水が漏れてるよ。」

と教えてくれ、辺りを見てみると、一面が水浸しになっていた。業者の方に連絡をし、言われたとおりに操作した。すると、水漏れが止まるとともに、生活するのに使う水も止まってしまった。そのため、昼食時の食器を洗う事や、手洗い、トイレの水を流す事もできなくなってしまった。初めて、水が使えない状況だったので、心の中は不安しかなかった。幸いトイレは近くのスーパーで、お風呂は、祖父母の家ですませることができたので、少し安心した。家に業者の方が来て、修理をし、無事に水が使えるようになった。水が漏れた原因は、水道管のつなぎ目に塗ってあったのりが取れて、そこから水が漏れてしまったということだった。水のない生活というのがどれほど不安で大変かを実感することができた。何らかの理由で断水になることが、他にもあるかもと思ったので調べた。すると、地震によって水道管が破裂して起こるなど、自分達の生活の中に身近にあることが分かった。水というのは、蛇口をひねっても必ず出てくるとはかぎらないことも分かった。今、日本で一人あたりが使える水の量は、世界平均の半分以下にあたる、約三千三百七十八立方メートルしかないことも知ることができた。そのため、ダムを建設することは水資源の確保などの役割から、無くてはならない存在にある。それを理解した水源地域に住む人々の心に、私達は、感謝するべきではないか。

貴重な実体験があったからこそ、水に対する意識が高まり、水源地域に暮らす人々に共感と感謝の気持ちを示すために、人間が及ぼす「水質汚濁」を自分達の生活の中で少しずつ見直すことが大切であるといえるだろう。